

1. 評価結果概要表

平成 19 年 12 月 10 日

【評価実施概要】

事業所番号	2072200443
法人名	医療法人 緑風会
事業所名	グループホーム御姫尊
所在地	長野県東御市祢津346-1番地 (電 話) 0268-64-0222

評価機関名	株式会社福祉経営サービス研究所 サービス評価推進室		
所在地	長野県松本市深志3丁目7番17号		
訪問調査日	平成19年11月29日	評価確定日	平成20年1月10日

【情報提供票より】(19 年 9 月 20 日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13年 3月 27日			
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計 9 人		
職員数	10 人	常勤7人	非常勤3人	常勤換算8.4人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1 階建ての 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円		その他の経費(月額)	円
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		円	月額 30,000 円

(4) 利用者の概要 (9 月 20 日 現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	2名	要介護2	1名		
要介護3	2名	要介護4	4名		
要介護5		要支援2			
年齢	平均 86 歳	最低 80 歳	最高 98 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	祢津診療所
---------	-------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

長野県東信地区の上信越自動車道東部湯の丸ICから車で5分の所に位置し、浅間山麓のふもとの田園に囲まれ、静かな場所にある。木造平屋立ての瓦屋根で、民家を感じさせる建物であり、隣の畑では利用者による野菜が多種作られており、収穫された野菜が食卓にのる日が多く、楽しみであり張り合いにもなっている。利用者が地元の方であり、地区の回覧板が回って来るため自宅に居たときと同じに地域の行事などにも参加が出来、依然と代わらない環境の中での生活が居心地の良さを感じさせるホームである。地元の小・中・高校生のボランティアが年3回と、東京の郁文館中学から毎年多数ボランティアとして訪問があり、孫かひ孫ぐらいの訪問は、生き生きとなる良い刺激となっている。医療的支援も、母体である法人は精神科・内科・眼科の診療所であり、老人保健施設も併設されている。緊急時には24時間体制で往診も受けられ、安心感のあるホームであると言える。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	介護計画は3ヶ月或いは、状態変化により随時の見直しが行われていた。また、栄養バランスについても法人の管理栄養士に月1回メニューを見て頂く等、改善への取り組みが窺えた。
①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員による自己評価は行われていないため、改善課題を抽出しサービスの質の向上の為に、定期的に全員による自己評価を実施し、職員のケアに対する意識付けに繋げることが望ましい。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議での提案により、区費・常会費の支払い、広報・回覧の配布が行われるようになり、利用者が地元の方であり地区の情報が得られることは大変なメリットである。しかし、まだ1回の開催に留まっているため、今後は年4回、定期的に開く計画であり、地域・家族・市などと活発な意見交換会となることに期待したい。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の面会が頻繁であり、いつでも気軽に声を掛けられるよう心がけている。家族会も年4回開き交流を深め、希望をお聞きしサービスの向上に反映している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	職員が地区の防災訓練に参加したり、ホームの災害訓練に地区の消防団参加してくれるなど、地元からの協力は得られる体制にある。回覧板が回って来ることにより自治会に行事に参加しやすく、地域にとけ込んだ生活が出来ており、地域とのコミュニケーションは取れている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設から6年が経過しており、地域密着型としての理念の見直しも行われ、“地域と「共にある」こと 地域の一員として暮らす事をめざす”を独自の理念として掲げられていた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	週1回のカンファレンス・月1回の全体会議などで、理念を復唱するなどし、理念の共有に努め、実践に向けたケアに取り組まれている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区の自治会に入り、区費も払っており回覧板も回るので、地域の行事や催しなどに自由に参加できる環境にあり、利用者も自宅に居たときと代わらない生活が出来ている。また、近くの小学校の運動会に招待して頂いたり、小・中学校及び高校生のボランティアによる年3回の訪問があるなど、地元の方との交流が盛んに行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価は3回目となり、評価結果について職員の全体会議などで、サービスの改善に向け検討され質の向上に取り組んでいる。	○	外部評価は受けているが、職員による自己評価は実施されておらず、職員一人ひとりが、改善課題の見極めと、気づきのためにも全職員による自己評価を行い、改善に向けた検討が行われることが望ましい。

グループホーム御姫尊

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの説明・状況報告を行うことにより、地区消防団による防災訓練の参加・協力の確認など、今まで以上に地区との連携が取れる関係が築くことが出来た。	○	運営推進会議はまだ1回開かれたに留まっており、今後ホームの希望としては年4回を目安に開きたいとの計画があり、実現され家族及び地区の方との意見交換を盛んに行ない、地域にとけ込んだサービスの向上に繋がる事に期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市から委託された介護相談員の受け入れをされ、2ヶ月に1回の訪問があり、情報交換を行うなどサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者と家族が地元であるため面会は頻繁で、面会時に声掛けをして様子を話したり、変化が生じたり面会が遠のいたりした時には電話連絡をするなど、報告をしている。家族会も年4回開き交流も行われている。金銭管理は、お預かりしている方については訪問時に確認印を頂いている。	○	便りが年1回発行されているが、四季折々ぐらいを目途に発行したり、一言のコメントでも請求書の郵送時に添えられることが望ましい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にさりげなく意見箱が設置されていた。家族の面会が頻繁であり、気軽に相談できる雰囲気造りに心がけている。家族会も年4回開き、交流も盛んに行われている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	定年などにより職員の交代が分かっているときには、少し前から新しい職員も訪問し、混乱が起きないように利用者と馴染みの関係が築けるよう努力をしている。家族には便りなどで知らせている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回法人全体の内部研修を開き、ケアの質の向上と育成に取り組んでいる。外部研修も段階に応じて参加できるよう配慮している。また、研修の報告会開き職員間で共有もされている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月1回地域のグループホーム同士の勉強会に参加し、事例検討会を行うなどお互いのケアの向上に努めている。ネットワークづくりも積極的に行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	デイサービスとして通所枠が3名分あり、通所を利用しながら馴染みの関係を築き、ホームの雰囲気に慣れてから家族と相談しながら入所を検討出来るよう配慮されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩である利用者の知恵袋から、沢山の事を学ばせて頂いたり職員が補ったりと、持ちつ持たれつの支え合いの生活が窺えた。漬け物の漬け方など経験の中から教えて頂いていることを聞くことが出来た。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望する暮らしが出来るよう、本人・家族から情報収集され、思い思いの物が部屋に持ち込まれ、趣味を続けるなど本人が納得した生活が送ることが出来るよう支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の面会が頻繁であるため、本人と家族の意見を聞き、週1回開かれるスタッフ会議での意見とを合わせ検討し、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日頃の気づきについて見直し用紙に記録し、職員全員で介護計画は3ヶ月を目安に見直しが行われている。状態の変化が生じたときには、随時見直しも行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通所の受け入れをし、利用契約の前に空き状況にもより検討が出来る。法人の理学療法士による週1回訪問リハビリを全員で受けている。		

グループホーム御姫尊

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人内に内科・精神科・歯科があり、月に1回定期的に受診している。緊急時には24時間体制で往診も受けられる。スタッフとして看護師が常駐しており、急変時には主治医と連携を図り適切な支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	法人内に老健・診療所もあり、利用契約時にターミナルについての希望の聞き取りはされているが、状態変化により、その都度主治医・家族・スタッフで話し合いをし、検討している。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりに合わせた声のトーンなどに配慮し、プライバシー損ねることのない対応がなされ、個人情報保護に掲げられていることを守られていることが職員の対応からも窺えた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の暮らしに決まり事もなく、個々にやりたいことを自由に出来る環境作りがされ、のびのびと生活出来る支援をしている。		

グループホーム御姫尊

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	採れた野菜など使いながら、その日になってから利用者に意見を聞きメニューを決め、買い物に出かけ、食事の準備・片付けも力量に合わせて一緒に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は基本的には週2回であるが、畑の作業の後などその状況に応じて、シャワー浴をして頂いたり、希望の時間にゆっくり入れるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家族からの聞き取りや、生活歴などを参考にし、趣味・楽しみごとなどいつでも力量発揮出来るよう配慮されている。	○	生活歴の聞き取りされていることは確認できたが、様式を作成し誰が見ても分かりやすいようまとめることが望ましい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や体調にもよるが、1日何回かホームの周辺を散歩したり、買い物・ドライブ・外食、または行事の年間計画をたて、外出の機会を設けている。玄関前に椅子が用意されており時折外に出ては、のんびり過ごす事が出来る工夫がされていた。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵を掛けていない。外に出てしまうようなときには、察知し声掛けをしたり、一緒に外に出て見守りをするケアが窺えた。		

グループホーム御姫尊

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回地域の消防団の協力も得ながら災害訓練を実施している。地域の防災訓練にも職員が参加するなど、地域との連携体制は出来ている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事と水分の摂取量は記録されており、献立も月に1回法人の管理栄養士に見てもらっている。一人ひとりの身体の状態により刻み・ミキサー食などで対応もされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関の外にはお友達同士で日向ぼっこが出来るように椅子が用意されていた。建物の中心に中庭があり、その中庭を囲むように廊下となっているため陽の光で明るく、廊下の手すりも利用者の身長に合わせ低めに付けられている。畳の居間では食後のんびりテレビ鑑賞されるなど、居心地よく過ごせる工夫がされていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具・テレビ・炬燵・仏壇など自由に持ち込まれたり、畳を敷いて和室にしている方など一人ひとりが自由に居心地よく過ごせるようかもしだされていた。また、箸や湯飲みなども愛着のある物を使い、食事も楽しみであることが窺えた。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。